

My sister **seemed to have been** popular for those few weeks.

→ **It seemed that** my sister **had been** popular for those few weeks.

**類義** seem と appear の意味の違い

seem : 「(話し手の主観的判断により) …のようだ」

appear : 「(話し手が視覚に基づいて客観的に判断して) …のようだ」

ただし、不定詞とともに使う場合、その用法は同じと考えてよい。

1. He **seems** [appears] to be busy. / He **seems** [appears] to have been tired.

2. It **seems** [appears] that he is busy. / It **seems** [appears] that he was tired.

look (to be) + 形容詞は、外観など見た目で見える内容に限られる。

You look (to be) very pale. 君はとても顔色が悪く見えるよ。

類例として

appear to do 《ややかたく》…すると思われ(てい)る

be said to do 《主に書》…すると言われている

be thought to do 《かたく》…だと思われている

be believed to do 《かたく》…だと考えられている

などがあり、いずれも状態動詞や完了形を従える。



**練習問題 6 : 2つの英文が同じ意味になるよう**

**カッコ内に適切な語を入れなさい**

→解答 p.193

- ① It seems that he knows everything about the animation.  
He seems (     )(     ) everything about the animation.
- ② It is said that Osaka Castle was built in 1585.  
Osaka castle is said (     )(     )(     )(     ) in 1585.

## 2 不定詞の進行形

35 All the students seem **to be listening** to his guidance carefully. 200

生徒は皆、彼の指示を注意深く聞いているようだ。

36 The vacationers seemed **to be enjoying** the bus tour. 201

行楽客たちは、そのバスツアーを楽しんでいるようだった。

不定詞の進行形は、〈**to be doing**〉という形になる。

it を使って次のように言い換えることができる。

→ It seems that all the students are listening to his guidance carefully.

→ It appeared that the vacationers were enjoying the bus tour.

完了進行形もある。

All the students seem **to have been listening** to his guidance carefully.

→ It seems that all the students have been listening to his guidance carefully.

生徒は皆、彼の指示をずっと注意深く聞いていたようだ。

The vacationers appeared **to have been enjoying** the bus tour.

→ It appeared that the vacationers had been enjoying the bus tour.

行楽客たちは、そのバスツアーの間ずっと楽しんでいるようだった。

### 3 不定詞の受動態

37 I didn't want **to be seen** by others. 私は他人に見られくなかった。 202

38 The word *karaoke* seems **to have been introduced** into English in the 1970s. 「カラオケ」という語は 1970 年代に英語に取り入れられたようだ。 203

不定詞の受動態は〈**to be done**〉, 完了不定詞の受動態は〈**to have been done**〉という形になる。38は it を使って書き換えると次のようになる。

38' → It seems that the word *karaoke* was introduced into English in the 1970s.



**質問箱** You are to blame. の to do は受け身を表すのですか？

You are to blame. ≡ You are to be blamed. 君は非難されるべきだ。

不定詞の受動態という形がある現代英語では, You are to be blamed. になるはずと多くの人が思うところでしょうが, 慣用表現として今でも使われます。

これに似た表現として次のようなものがあります。

This house is to let. この家は貸し家です。

**原理** 古い英語では不定詞に能動態も受動態もなかったが, 受動態にしろなくても blame が他動詞であるため文の主語が不定詞部分の blame の目的語であると感じられるため。



コーパス この用法の動詞

bear O to do O が…することに耐える《話》〔通例否定・疑問文で「やめて欲しい」ことを表す〕  
hate O to do O に…してほしくないと思う《話》 like O to do O に…してもらいたい  
love O to do O に…してもらいたいと思う need O to do O に…してもらう必要がある  
prefer O to do O に…してほしいと思う want O to do O に…してほしいと思う  
wish O to do O に…してほしいと思う《かたく》  
(would) like O to do O に…してもらいたいと思う

類例 My father **wanted** *me to keep* the promise.

父は私に約束を守ってほしかった。

※目的語の前に for をつけて使われることもある。

→ My father **wanted** for *me to keep* the promise. 《主に米・くだけでて》

類義 wish と want



不定詞

My boss **wished** *me to undertake* this work.

上司は私がこの仕事を引き受けることを望んでいた。

〔want と違って主語に to 不定詞の内容を指示する権限があることを暗示〕

発信のヒント コーパス 直接 that 節を従えない場合

bear, hate, like, love, prefer などは、直接 that 節を従えることはないが、後に続く when 節や if 節を指す形式目的語の it を従えることがある。

I **hate it when** you do that. 君にはそんなことされたくない。

I'd **like it if** you didn't talk to anybody about it.

そのことは誰にも話さないでおいてくれるとありがたいな。

注意しよう! × hope O to do はダメ!

want や wish などからの類推で、hope O to do という形がありそうに思う人が多いが、これは不可。hope (that) + S'+V' の形を用いる。

I **hope** everything works [will work] out for you.

万事うまくいくようお願いしております。

× I hope everything to work out for you.

hope は  
節だけ!





【!】 「命令〔忠告〕する」という意味の tell と「説得する」という意味の persuade も動詞＋O to do 型と動詞＋O that 節で使用可能。ただし、この意味の tell は that 節中に must, have to, should, be to do などを伴うことが多いものの、外見上 should を伴っていても 〈(should)＋動詞の原形〉〔「…するよう」の意〕の用法とは異なり、〔「…すべきである」の意〕〔should は省略できない〕であることに注意。

His doctor **told** him **that** he should not attend any public events.  
彼の主治医は彼はどんな公的行事にも出席すべきではないと忠告した。

※もともと、tell が that 節を従える場合は「話す、伝える」の意味で用いることが多い。

He told us **that** he was very sorry. 彼は私たちに本当にすまないと言った。

※persuade も〈かたく〉で persuade O that ... の型で用いられることがあるが、「O〈人〉に…と言うことを信じさせる」(convince) の意。

He looked for ways to **persuade** others **that**his idea was right.  
彼は自分の考えが正しいことを他の人たちに信じてもらう方法を模索した。

【!】 「提案する」という意味の動詞 suggest や propose は、〈SVO＋to do〉の形では使われず、that 節を用いる。また、「要求・要請する」という意味の demand, request, require, insist はいずれも 〈(should)＋動詞の原形〉を伴う that 節を従えるが（→第12章 pp.348-349）、〈SVO＋to do〉の形が可能なのは request と require のみ。demand は demand to do の形は可能だが、insist はそもそも to do を従えない。

I **suggested** to them **that**we (should) go to the party in my car.  
私は彼らに私の車でそのパーティーに行くことを提案した。

× I suggested them to go to the party in my car.

ここが Point! persuade O to do

過去形で使う場合、「Oを説得して…（の行為を実際に）させた」という意味になる。単に説得しただけで実行を伴わない場合は、tried to persuadeを使う。

**I tried to persuade my brother to come to this party, but I couldn't.**  
私はこのパーティーに来よう兄を説得したのですが、説得できませんでした。

発展 S promise O to do には要注意!

to do 以下するのは、OでなくSであることに注意しよう。

**Will you promise me to meet me next Sunday?**

来週の日曜日に私と会うことを約束してくれますか。

promise も promise O to do の構文をとるときがあるが、

O と to do の間に意味上の <S+V> 関係はない。

S と to do の間に意味上の <S+V> 関係があることになる。

ただし、promise O to do の形そのものを認めない人も多い。

これに対して、promise O that S'+V' の形を認める人の方が多い。

**She promised me that she would meet me next Sunday.**

彼女は来週の日曜日に私と会うことを約束してくれた。



7

不定詞

3 allow 型

**43 My parents allowed me to stay with my friend.**

両親は私が友人宅に泊まるのを許可した。

**44 He forced his daughter to come back home.**

彼は娘を無理やり帰宅させた。



208

209

1. allow や force など〈許可〉〈強制〉などを表す動詞を用いた〈SVO + to do〉で「Oに…するのを許可」、「Oに…するように強制する」といった意味になる。

2. O to do には〈S+V〉の関係があることに注意。

### 3 〈SVO + 動詞の原形〉 構文

ここでは、〈知覚動詞や使役動詞 + O do〉の使い方を扱う。

#### 1 知覚動詞

47 I **saw them get** into a taxi in front of the station. 212

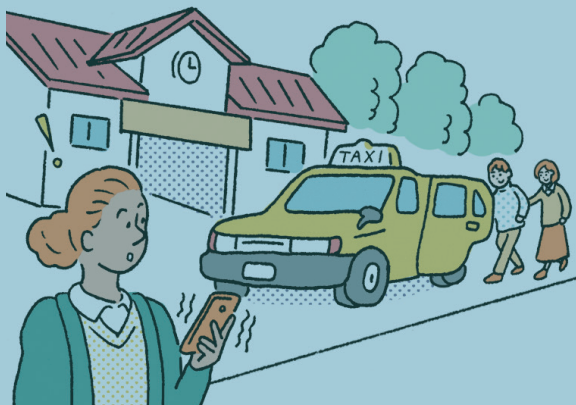
彼らが駅前でタクシーに乗り込むのを見た。

48 Just then, I **heard my cell phone ring**. 213

ちょうどその時、携帯が鳴るのが聞こえた。

〈知覚動詞 (see [hear] など)  
+ O do〉で、「O が…するの  
を見る [聞く]」

知覚動詞には, see (見える),  
hear (聞こえる), feel (感じる),  
watch (じっと見る),  
listen to (聞こうとして聞く),  
notice (気づく),  
observe (目撃する, 気づく)  
などがある。



7

不定詞

**類例** I have never **seen her get angry** in front her son.

私は彼女が自分の息子の前で怒るのを見たことがない。

I have never **heard John play** the piano.

私はジョンがピアノを弾くのを聞いたことがない。

**[!]** 〔〈知覚動詞 + O doing/done〉の形が使われることもある。  
pp.244-245 を参照〕

発展 get O to do

〈get + O + to do〉で「(説得したり頼んだりして) O に…してもらう、させる」という意味。

I got my friend to paint my bicycle. 私は友人に自転車の塗装をしてもらった。  
「(当然) …させる」関係にある have と違って、get は「(努力して) …を得る; たどり着く」の意から分かるように、「(何とか相手を説得して) …してもらう」という意味。

【!】 使役動詞を使った文を受動態にする場合は、to 不定詞を使う。

なお、let や have は通例、受動態にしない。

49' → She was made to wait in the café by him for an hour.

彼女は彼によってカフェで1時間も待たされた。

let O do の受動態を使いたいときは通例、be allowed to do を用いる。

→ She was allowed to travel alone by her parents.



質問箱 なぜ have O do で、なぜ get O to do なのか?



have は「…を持っている」という意味から派生して「(立場上) O に…させる権利を持っている」という意味を持ちます。何の努力をしなくても、すでにそういったことをさせる権利を持っている、ということです。

I'll have the doctor call you back. (看護師が) 先生に折り返しお電話させます。

get は「ある状態に到達させる」という意味から、到達先を表す to が必要だと考えると理解しやすいでしょう。have の時のような制約はありません。

I got [asked] my teacher to check the essay. [←ここで have を使うと間違い]  
私は先生に作文を見てもらった。



〈形容詞 [副詞] + **enough to do**〉:「～するくらいに十分…」

**類例** Kate is no longer well **enough to get out of bed**.

ケイトはもはやベッドから出られるほど元気でない。

**【!】** 〈**so ... that** 節〉を使って書き換えることができる。

**55'** → She was **so kind that** she showed us around the campus.

**56'** → This pond is **so safe that** you can swim in it.

**注意しよう!** 形容詞 + **enough to do** = **so** + 形容詞 + **that S' + V'** とは限らない!

どのような場合でも〈**so ... that** 節〉で書き換えられるわけではないことに注意。

次の2文はそれぞれ意味が異なるので注意。

Mary is old **enough to feed and clothe herself**. メアリーは自分でご飯を食べ、服を着ることのできる年齢だ。〔← Mary が高齢でなくても言えることに注意〕

Mary is **so old that** she can't feed and clothe herself.

メアリーはとても歳を取っていたので、自分でご飯を食べ、服を着ることができない。〔← Mary が高齢である場合〕

### 発展 不定詞の目的語



〈**too ... to do**〉のときと同様、不定詞の意味上の主語である for A があると、(本来は不要なのだが) 不定詞の目的語をつける人もいる。

**56'** → This pond is safe **enough for you to swim in (it)**.

### 3 so ... as to do

**57** John is **so old as to collect** his pension.

222

ジョンは年金を受け取ることのできる年齢だ。

〈**so + 形容詞 [副詞] + as to do**〉:「～するくらいに…」(程度),「とても…なので～」(結果) (かたく)

**類例** Would you be **so kind as to open** this door?

(主に英) このドアをお開けいただけますか。



## 7 代不定詞

- 81 My father tells me to take a science course but I don't want **to**. 247  
父は私に理系に進めと言うが、私はそうしたくない。

動詞部分の重複を避けるための用法。

81では、to の後に“take a science course”が省略されている。

**類例** I'm sorry to hurt you, but I didn't mean **to**.

君を傷つけてごめん、でもそんなつもりはなかったんだよ。

〔← to の後に“hurt you”が省略されている〕

“Could you help me with my homework?” “Yes, I'll be glad **to**.”

「宿題、手伝ってくれるかな」「ええ、喜んで」

〔← to の後に“help you with your homework”が省略されている〕

## 8 分離不定詞

- 82 I want you **to** really **understand** this. 248

私はあなたにこのことを本当に理解してほしいと思っています。

- 83 John hopes **to** utterly **forget** his past. 249

ジョンは完全に自分の過去を忘れたと思っている。

to と do の間に副詞（句）が挿入されることがある。

以前は文法的に誤りとされていたが、実際には話し言葉だけでなく書き言葉でも使われることがある。ただし、あいまいさを避けるためでなければ使わない方がよい。

コーパス



文体

so to speak [say] 言わば to be brief 手短かに言うと  
to be frank (with you)/ to speak frankly/ to put it frankly 率直に言えば  
to be honest 正直に言って to be precise 正確に言うと  
to put it another way つまり to put it mildly 控えめに言っても  
to put it simply 簡単に言えば to say the least 控えめに言っても

態度

needless to say 言うまでもなく  
not to mention .../ not to speak of .../ to say nothing of ... …は言うまでもなく  
strange to say 不思議なことに to be sure 確かに  
to do ... justice …を公平に評すれば  
to make matters worse その上悪いことに〔文頭または and などの後で〕  
to tell (you) the truth 実を言うと

連結

to begin [start] with まず第一に〔通例、文頭で〕

7

不定詞

ここが Point! not to speak of ... と needless to say の使い分けに注意!

not to speak of ... で「…は言うまでもなく」

Needless to say, S+V で「言うまでもなく、S は V する」

This project will take a lot of time, **not to speak of** the expense.

その計画は、費用は言うまでもなく、時間もたくさんかかるでしょう。

This project, **needless to say**, will take a lot of time.

言うまでもなく、この計画はたいへん時間がかかるでしょう。



Grammar in Writing 主語の設定は文脈の中で一形式主語 it 編

1) につなげる場合、2a) と 2b) のどちらの方がよりスムーズにつながるか。

1) We listened to Professor King's lecture on the expanding universe.  
キング教授の膨張宇宙についての講義を聞いた。

2a) But the lecture was difficult to understand ...

2b) But it was difficult to understand the lecture ...

普通は 2a) の方がよりスムーズにつながります。なぜならば主語が the lecture だからです。

